

環境標準データ  
(CML : Coastal and estuarine Markup Language)  
データエディタ  
共通マニュアル

操作説明書

---

---

## -目 次-

1	はじめに .....	- 1 -
2	注意事項 .....	- 4 -
3	操作マニュアル .....	- 6 -
3.1	操作全体のフロー .....	- 6 -
3.2	XML 観測値ファイルの作成 .....	- 9 -
3.2.1	フォルダの作成と起動 .....	- 9 -
3.2.2	エディタ：作業方法シートの入力①（任意） .....	- 10 -
3.2.3	エディタ：使用機器シートの入力（任意） .....	- 11 -
3.2.4	エディタ：作業方法シートの入力②（任意） .....	- 12 -
3.2.5	エディタ：調査地点座標シートの入力（必須） .....	- 13 -
3.2.6	観測値ファイル：深度変動用観測値ファイルの入力（必須） .....	- 14 -
3.2.7	観測値ファイル：時間変動用観測値ファイルの入力（必須） .....	- 18 -
3.2.8	観測値ファイル：生物用観測値ファイルの入力（必須） .....	- 23 -
3.2.9	観測値ファイル：観測値ファイルの終了とフォルダへの格納（必須） .....	- 28 -
3.2.10	エディタ：XML 変換シートでの変換ファイルリスト作成と調査分類の選択（必須） .....	- 28 -
3.2.11	エディタ：調査項目シートでの調査項目と単位の読み込み（必須） .....	- 30 -
3.2.12	エディタ：調査項目シート（必須） .....	- 33 -
3.2.13	エディタ：単位シート（必須） .....	- 34 -
3.2.14	エディタ：メタ情報シート（必須） .....	- 35 -
3.2.15	エディタ：XML 観測値ファイルの作成（必須） .....	- 36 -
3.3	メタデータファイル作成 .....	- 37 -
3.3.1	ユーザーID・メタデータファイル番号の入力（必須） .....	- 37 -
3.3.2	エディタ：メタ情報シート（必須） .....	- 38 -
3.3.3	XML メタデータファイルの作成（必須） .....	- 40 -

---

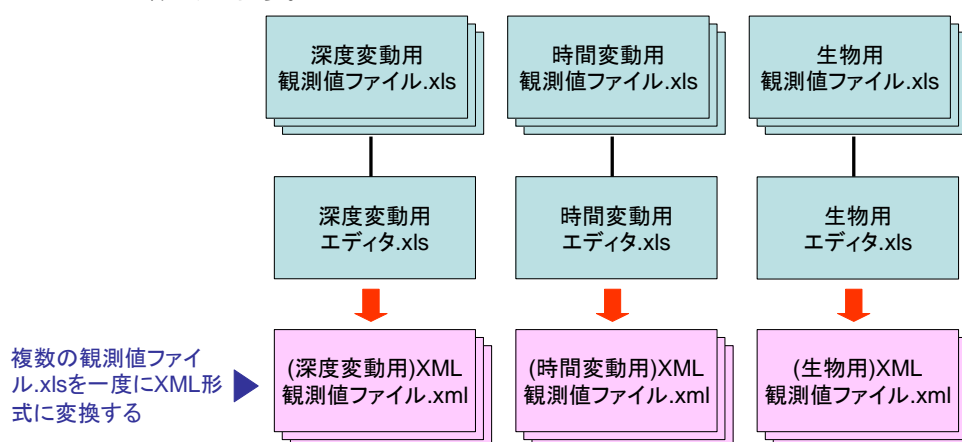
---

## 1 はじめに

このエディタは、東京湾環境情報センター（以下 TBEIC）において検討されたデータ仕様（CML：Coastal and estuarine Markup Language）を有した観測データの作成を支援するツールです。CMLは、平成14年4月より学識経験者からなる環境情報標準化検討会のもとで構造決定されたものです。データ構造の検討の際には、空間情報の国際規格を作成しているISO/TC211（211番目のTechnical Committee）により公開されている地理情報標準を参考としました。

### ➤ エディタの特徴

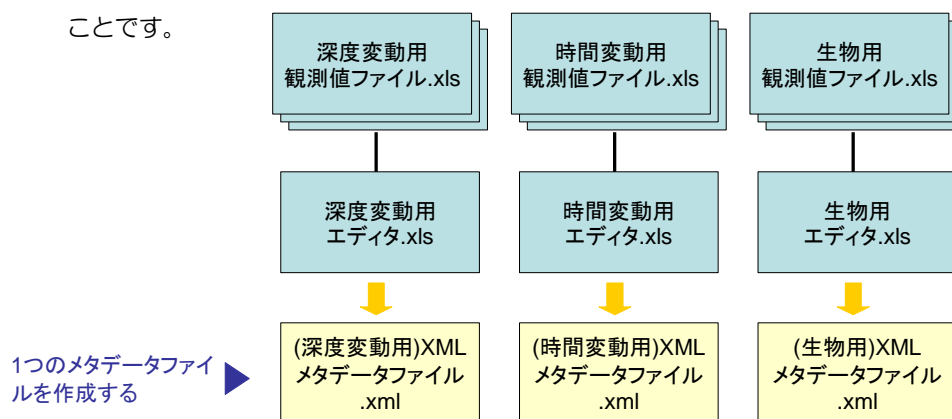
- ◇ エディタには鉛直方向に連続した調査に適する**深度変動用**、定点での時間連続調査に適する**時間変動用**、生物調査に適する**生物用**の3種類があります。それぞれのエディタに記入されたデータとエディタの種類に対応した観測値ファイル（エクセル形式で、深度変動用、時間変動用、生物用がある）のデータからXML観測値ファイルを作成します。



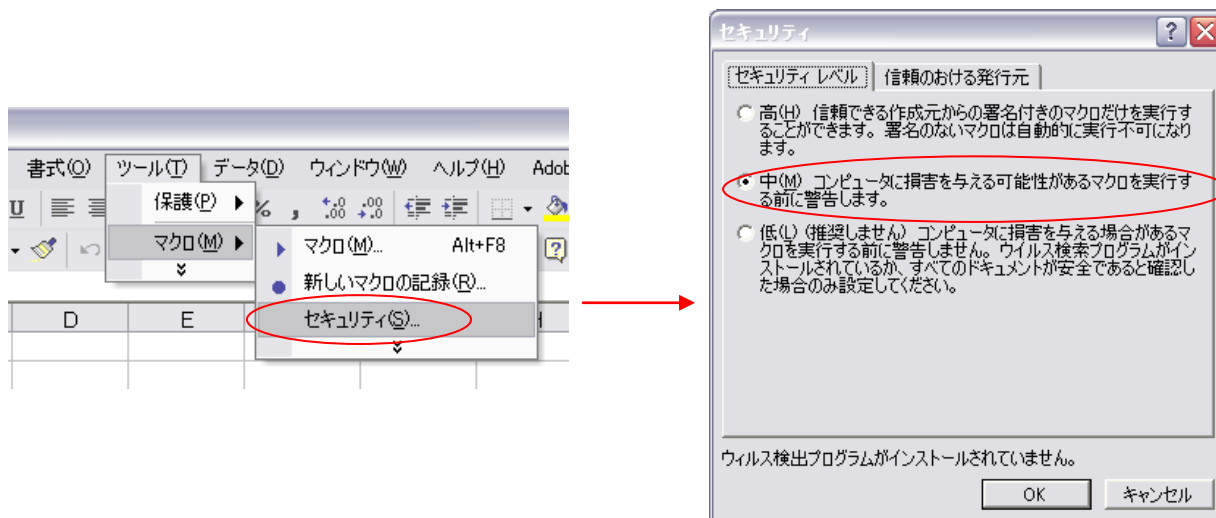
- ◇ CML 準拠のXML形式のメタデータを作成可能

メタデータとは…

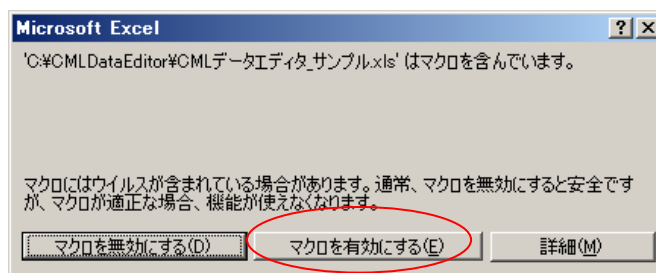
メタデータは実際に取得した観測データ（実データ）を説明するデータのことです。つまり、実データがいつ、どこで、誰が、どのような調査項目で調査を行った結果であるのかを示すデータのことです。



- ◇ 広範囲のユーザーを意識し、ツールには Microsoft Excel を採用
- ◇ ボタンやドロップダウンリストを利用し、入力の煩わしさを軽減
- ◇ XML データ作成の成否判別機能
- ◇ MicroSoft EXCEL2007 以降のバージョンで動作確認済。  
確認済 Ver(EXCEL2010、EXCEL2013)
- 扱うファイルについて
  - ◇ ファイルは、「エディタ」と「観測値ファイル」であり、それぞれ、“深度変動用”、“時間変動用”、“生物用”の3種類があります。
  - ◇ エディタへの入力方法、利用方法は3種類の形態で同一となっており、観測値ファイルは3種類で異なります。
- エディタマニュアルについて
  - ◇ マニュアルは3種類（深度変動用、時間変動用、生物用）の形態に共通した形で書かれています。
- マクロの設定について
  - ◇ エディタを起動する際に、セキュリティレベルについてのダイアログが表示される場合は、“ツール” > “マクロ” > “セキュリティ” において、セキュリティレベルを中(M)にし保存後、エディタを再起動して下さい。



- ◇ 起動中にマクロを有効にするかどうかのダイアログが表示されますので、「マクロを有効にする(E)」を選択し、エディタを起動します。

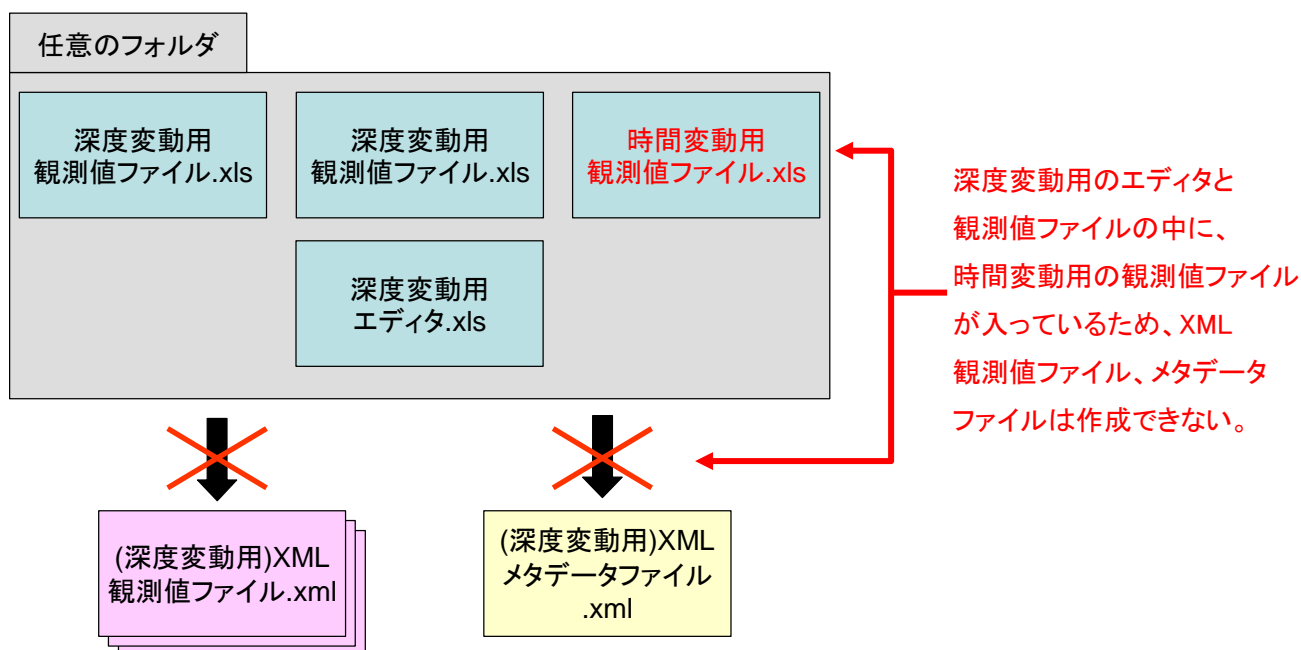


## ➤ 改訂履歴

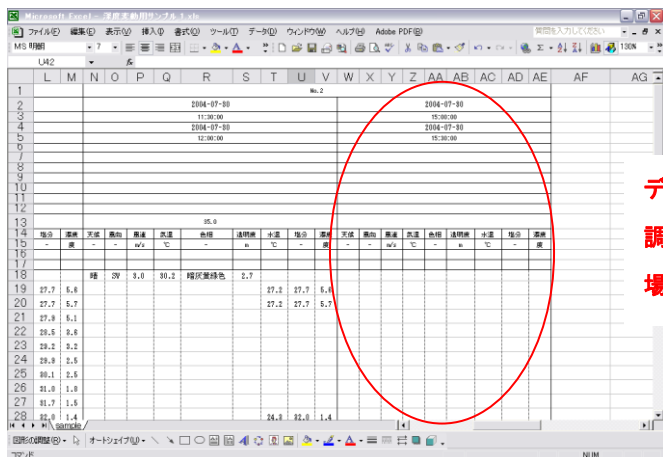
日付	バージョン	改訂内容
H16.9	1.0	初版作成
H17.3	1.1	全水深・観測深度の基準面を記述する欄を設定しました。
H22.4	1.2	エディタの調査項目シートにおいて、観測値ファイルから調査項目を読み込む方法を変更しました。
H29.3	1.3	対応 EXCEL の Ver を変更しました

## 2 注意事項

- エディタのXML変換シートにある各ボタンをクリックした後に、編集>「元に戻る (Ctrl+Z)」は実行できません。よって、**全ての項目が入力し終わった後に、ファイルの保存を行って下さい。**
- エディタの各シートの順番を入れ換えしないで下さい。
- エディタにシートを追加する場合には、8枚目以降に追加して下さい。
- エディタにおいて行または列の非表示、入れ換えは行わないでください。
- エディタおよび観測値ファイルにおいて**数字は全て半角で入力してください。**また、**半角カタカナは使用しないでください。**ただし、**生物の名称を入力する際には半角カタカナを使用することができます (3.2.8 生物用観測値ファイルの入力参照)。**
- 変換ファイルリスト (エディタのXML変換シートにあるボタンをクリックすると自動的に作成される) を作成する際には、必ず任意のフォルダを作成し、その中に、エディタおよび観測値ファイルをおいて下さい。なお、フォルダ内にさらにサブフォルダを置くことも可能です。その場合は、変換ファイルリストはサブフォルダにある観測値ファイルは対象としません。
- エディタと観測値ファイルはそれぞれ3種類 (深度変動用、時間変動用、生物用) あります。フォルダを作成し、その中にエディタと観測値ファイルを格納します。**その際、フォルダの中は必ず同一の種類のエディタと観測値ファイルとしてください。**
- 東京湾環境情報センターのWEB-GISに登録する際には、1つのXMLファイル内に、同一調査項目を格納することはできません (DO (mg/l)、DO (%) 等)。
- 観測値ファイル内の深度や全水深、観測値はエクセルで“見えている値”をXMLに出力します。よって、**書式設定により、数値が四捨五入されることがあります。**

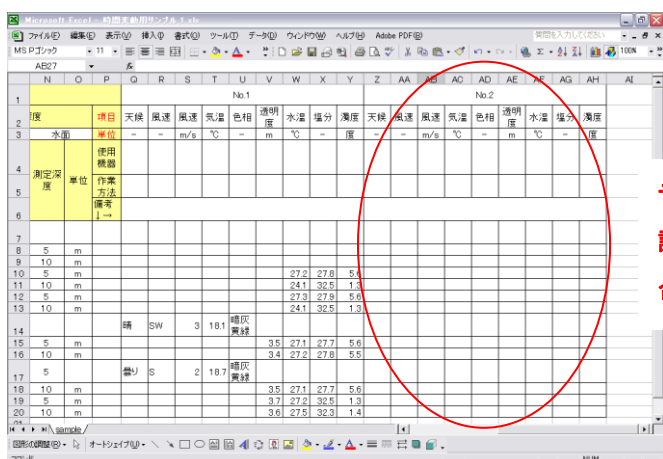


- 深度変動用観測値ファイルにおいて、データは入っていない場合は調査時期を記述しないで下さい（調査は実施したが、データを取得できなかった場合は ND というように明示して下さい）。



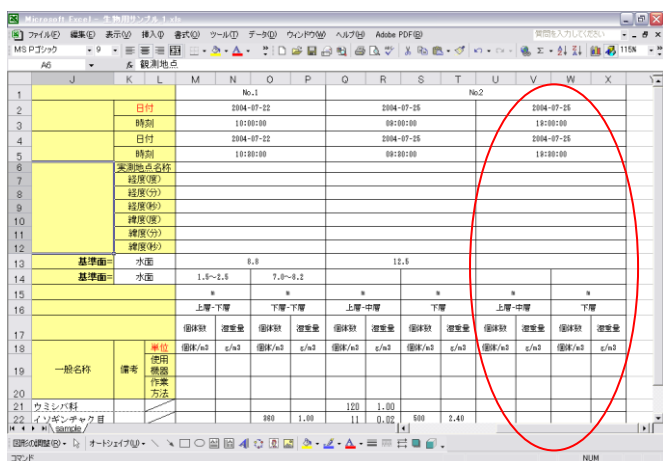
データは入っていないが、調査時期は記述してある場合はエラーとなります。

- 時間変動用観測値ファイルにおいて、データが入っていない場合は、調査点を記述しないで下さい（調査は実施したが、データを取得できなかった場合は ND というように明示して下さい）。



データは入っていないが、調査点は記述してある場合はエラーとなります。

- 生物用観測値ファイルにおいて、データが入っていない場合は、調査時期を記述しないで下さい（調査は実施したが、データを取得できなかった場合は ND というように明示して下さい）。



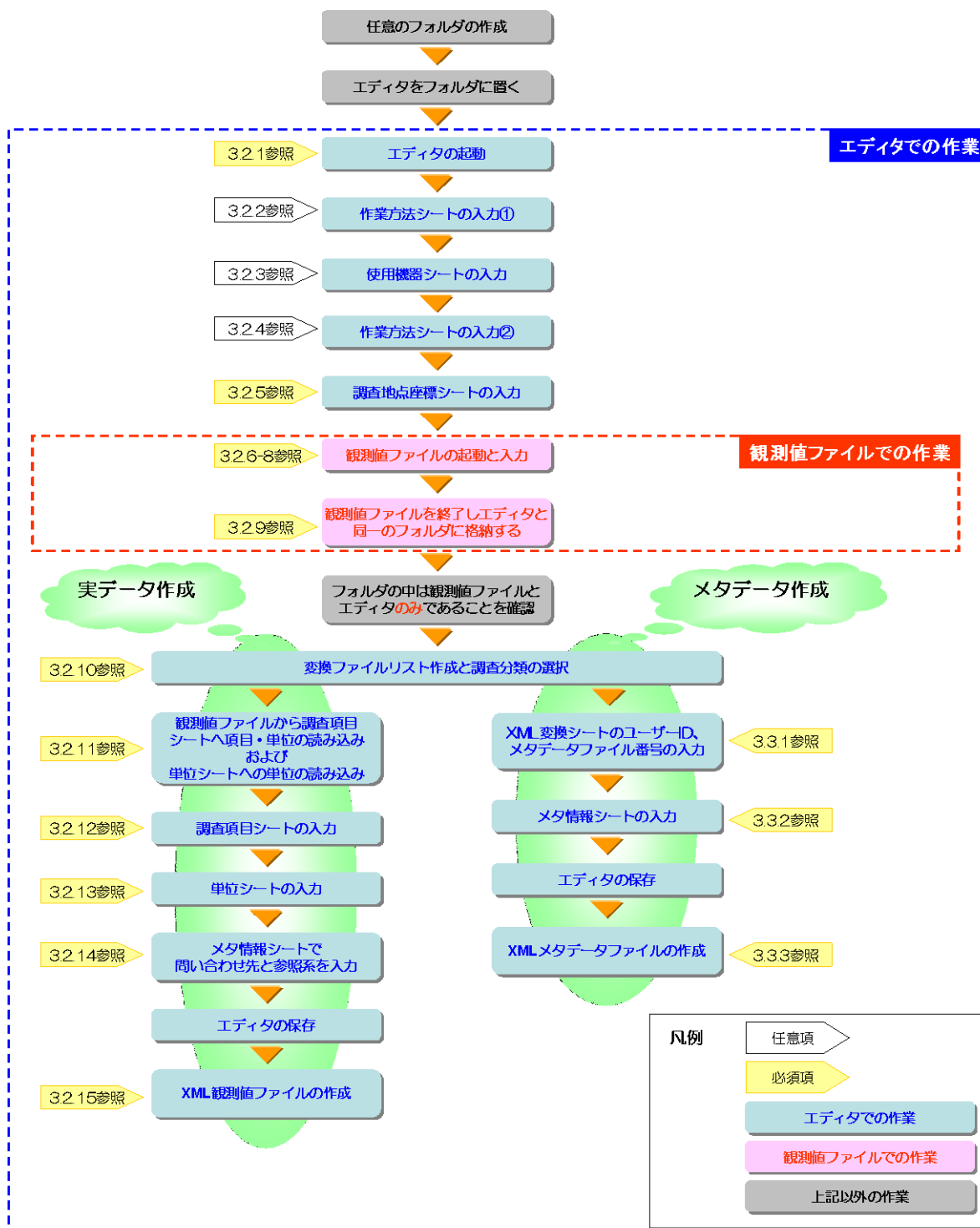
データは入っていないが、調査時期は記述してある場合はエラーとなります。

### 3 操作マニュアル

#### 3.1 操作全体のフロー

XML 観測値ファイルおよび XML メタデータ作成の基本的な操作手順を示します。

なお、このフローは、調査の計画段階からこのエディタと観測値ファイルを利用することを前提としています。



● XML 観測値ファイル作成の流れ

- (1) エディタを任意のフォルダに格納し、起動させます。
- (2) 作業方法シートに作業方法名称～備考までを記述します（任意）。
- (3) 使用機器シートに使用機器名称～設定情報を記述し（任意）、機器と関連する方法 1～3 までをドロップダウンリスト（作業方法シートに作業方法名称を記述した場合）から選択できます（任意）。
- (4) 作業方法シートに戻り、方法と関連する機器 1～3 までをドロップダウンリスト（使用機器シートに使用機器名称を記述した場合）から選択できます（任意）。
- (5) 調査地点座標シートに地点名称と座標を記述します（必須）。ここまでの作業で、一度観測値ファイルでの作業に移ります。
- (6) 観測値ファイルを起動し、観測データを入力します（必須）。
- (7) 観測値ファイルを閉じ、エディタが格納してあるフォルダに観測値ファイルを格納します。
- (8) フォルダ内にはエディタ（起動中）と観測値ファイルのみがあることを確認します。次の作業から、再度エディタでの作業に移ります。
- (9) エディタの XML 変換シートにある「変換ファイルリスト作成」ボタンをクリックし、変換ファイルリストを作成（必須）し、調査分類を選択（必須）します（利用する観測値ファイルにより選択できる調査分類が異なります）。
- (10) 調査項目シートにある「調査項目の配置」ボタンをクリックします（必須）。これにより、フォルダ内の観測値ファイルにおいて、記述されている調査項目と単位のセットが調査項目シートに配置されるとともに、単位シートに単位が配置されます。
- (11) (10)において、配置された調査項目と単位のセットを確認します。また、その調査項目と関連する使用機器、作業方法をドロップダウンリスト（作業方法シート、使用機器シートに記述した場合）から選択できます（任意）。
- (12) 単位シートにおいて、単位の型を記述します（必須）。
- (13) メタ情報シートにおいて、問い合わせ先と参照系を記述します（必須）。問い合わせ先については、個人名、組織名のいずれかの入力が必要、電話番号、FAX、Email のいずれかの入力が必要となります。それ以外は任意となっています。
- (14) これで、作業は終了です。エディタを保存し（必須）、XML 変換シートの「XML 観測値ファイル作成」ボタンをクリックし、XML 観測値ファイルを作成します。

● メタデータ作成の流れ

メタデータ作成機能は観測値ファイルをこのエディタを用いて XML 観測値ファイルに変換した後に、その観測値ファイルの概要情報を東京湾環境情報センターへ登録することを想定したものです。

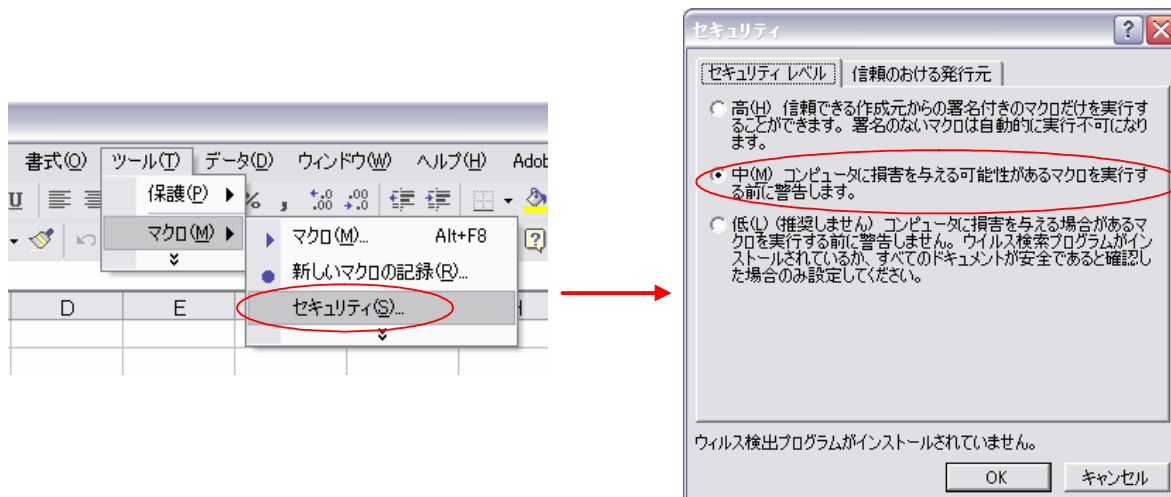
変換ファイルリスト作成と調査分類の選択までは XML 観測値ファイル作成作業と同一です。

- (1) **変換ファイルリストにある観測値ファイルに対して、メタデータは一つ作成されます。**  
XML 変換シートのユーザーID（東京湾環境情報センターに利用者登録した際にセンターから送られる）、ファイル識別番号（メタデータファイルをユーザーが管理するために識別する任意の番号）を記述します。  
**※ ユーザーID を取得していなくても、「test」といった仮のID を入力し、ファイル識別番号を入力すれば、メタデータの作成は可能ですが、東京湾環境情報センターへは登録出来ません。**
- (2) メタ情報シートに必須事項を記述します（必須）。
- (3) エディタを保存します（必須）。
- (4) XML 変換シートの「メタデータ作成」ボタンをクリックし、メタデータを作成します。  
（作成したメタデータの登録については、東京湾環境情報センターHP のクリアリングハウスのページを参照してください）

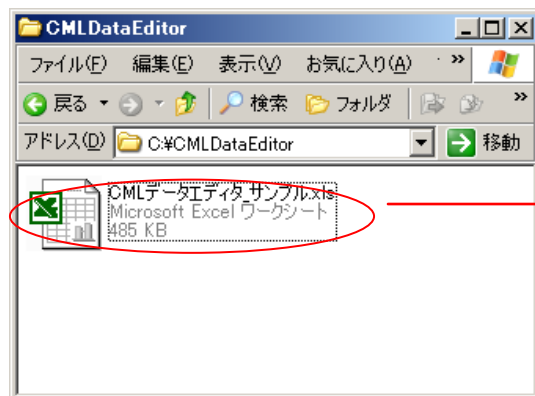
## 3.2 XML 観測値ファイルの作成

### 3.2.1. フォルダの作成と起動

最初に、データを格納するフォルダを任意の場所に作成します。そのフォルダ内にエディタを格納します。次に、エディタを起動します。セキュリティレベルについてのダイアログが表示される場合は、「ツール」>「マクロ」>「セキュリティ」において、セキュリティレベルを中(M)にし保存後、エディタを再起動して下さい。

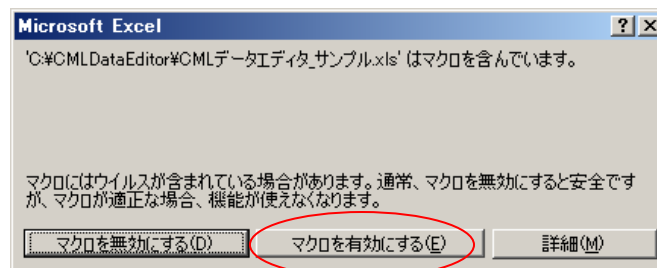


起動中にマクロを有効にするかどうかのダイアログが表示されますので、「マクロを有効にする(E)」を選択し、エディタを起動します。



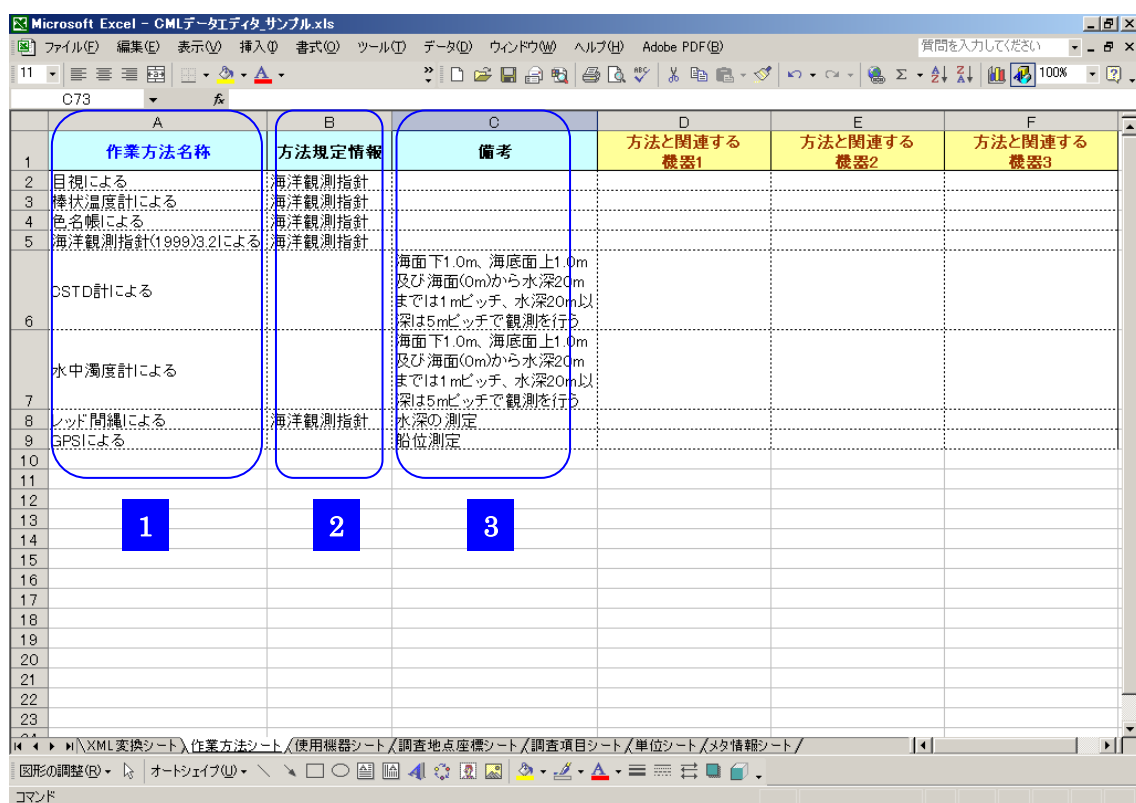
#### エディタ

ここでは、サンプルとしていますが、本来は深度変動用エディタ、時間変動用エディタ、生物用エディタのいずれかとなります。



### 3.2.2. エディタ：作業方法シートの入力①（任意）

このシートでは、調査における作業方法の情報をまとめて記述します。方法と関連する機器 1～3 の入力については 3.2.4 において説明します。



No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	作業方法名称	このシートに記述する場合は必須	自由	
2	方法規定情報	任意	自由	
3	備考	任意	自由	サンプリング方法などを記述します。 例：表層泥を 2 回以上採取

### 3.2.3. エディタ：使用機器シートの入力（任意）

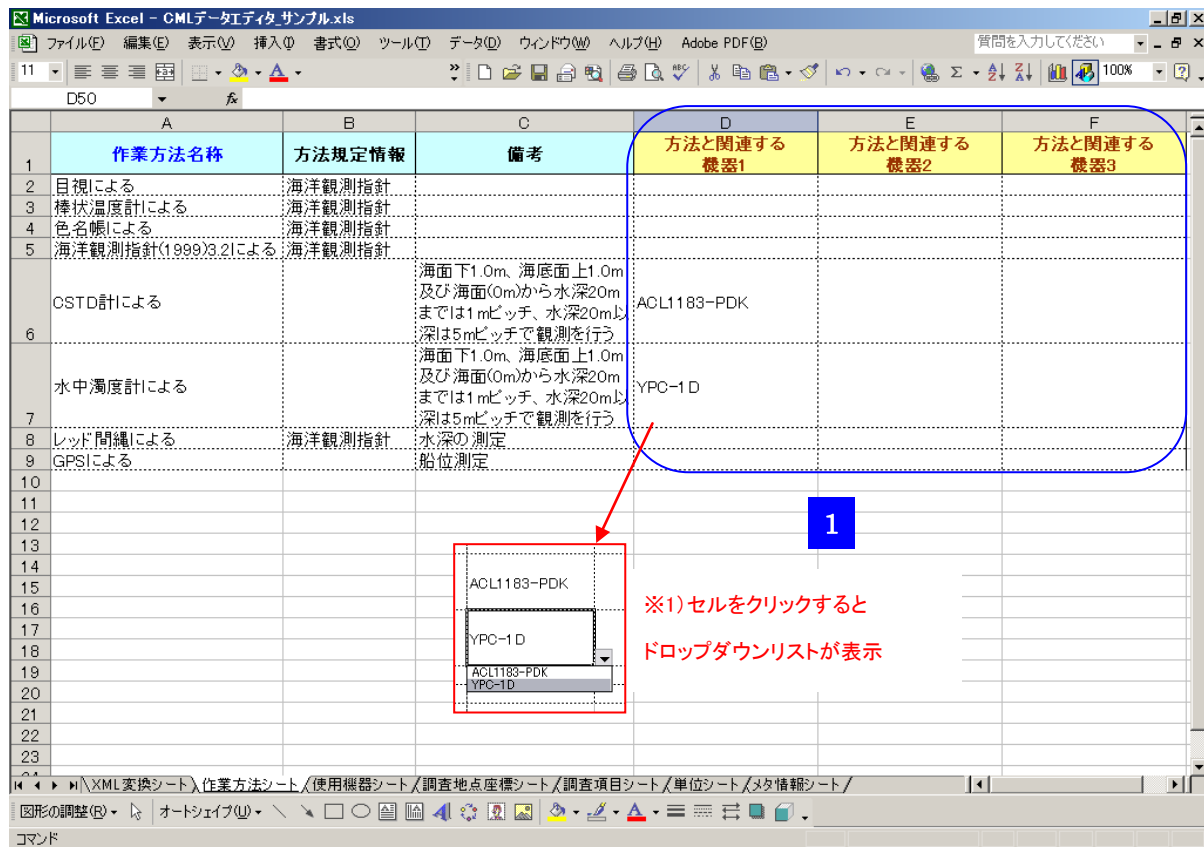
このシートでは、調査において使用した機器の情報をまとめて記述します。機器と関連する作業方法は作業方法シートで作業方法が定義されている場合は、ドロップダウンリストに定義された作業方法が表示されますが、定義されていない場合は入力できません。



No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	使用機器名称	このシートに記述する場合は必須	自由	
2	使用目的	このシートに記述する場合は必須	分析・サンプリング・保存から選択	※1 ドロップダウンリストから選択できます。
3	製造者	任意	yyyy-mm-dd 形式 hh:mm:ss 形式	調査を実施した日時が期間である場合に、終了した日付、時刻を記述します。記述する際の形式は開始と同様です。
4	シリアルナンバー	任意	自由	
5	設置場所	任意	自由	例：海底より 1.5m に固定 など
6	設定情報	任意	自由	使用機器に関する情報を記述します。 例：採泥面積 0.05m、
7	機器と関連する方法 1～3	任意	選択	※2 作業方法シートに定義されていれば、ドロップダウンリストから選択できます。

### 3.2.4. エディタ：作業方法シートの入力②（任意）

ここでは、3.2.3 において定義した使用機器と作業方法の関係について、作業方法シート上で定義します。3.2.3 で使用機器についての記述を行わなかった場合は、この 3.2.4 での作業は行う必要がありません。



No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	方法と関連する機器 1~3	任意	選択	※1 使用機器シートに定義されていれば、ドロップダウンリストから選択できます。

### 3.2.5. エディタ：調査地点座標シートの入力（必須）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	地点名称	緯度(度)	経度(度)	緯度(度)	緯度(分)	緯度(秒)	経度(度)	経度(分)	経度(秒)	備考
1	No.1			35	35	10	139	55	10	千葉港
2	No.2			35	35	11	139	56	11	千葉港
3	No.3			35	※1	12	139	53	12	千葉港
4	No.4			35	35	13	139	57	13	京浜港東京区
5	No.5			35	32	14	139	58	14	外港
6	No.6			35	30.1234		139	55.1234		千葉港
7	No.7			35	34	16	139	56	16	京浜港東京区
8	No.8			35	※2	17	139	53	17	外港
9	No.9			35	35	18	139	57	18	京浜港東京区
10	No.10			35	36	19	139	58	19	外港
11	No.11			35	32	20	139	55	20	外港
12	No.12			35.1235			139.123			京浜港川崎区
13	No.13			35	※3	22	139	53	22	京浜港川崎区
14	No.14			35	33	23	139	57	23	外港

このシートには、調査を実施する際の計画座標、または実際に調査を行った地点の座標（実測座標）を記述します。計画座標としてこのシートに座標を記述した場合、実測座標についても記述する必要がある時は、観測値ファイルに記述する事が出来ます。観測値ファイルの詳細は 3.2.6 から 3.2.8 に示します。

No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	地点名称	必須	自由	
2	10進法座標	記入不可	自由	
3	座標	必須	経度緯度	※1 度分秒表記、※2 度分表記、※3 度表記のいずれかで記述
4	備考	任意	自由	例：昨年度調査地点より座標変更 など

次の作業は、観測値ファイルの入力です。エディタは保存して終了しても結構ですし、起動させたままタスクバーに入れておいても結構です。3.2.10 で再度、エディタでの作業となります。ここで一度、エディタを終了させた場合は、3.2.1 と同様にエディタを起動させてください。

### 3.2.6. 観測値ファイル：深度変動用観測値ファイルの入力（必須）

深度変動用の観測値ファイルを開き、調査により取得したデータを記入していきます。記入が必須である項目については、赤字で示してあります。

調査点			No.1												
開始	日付		2004-07-30												
	時刻		10:00:00												
終了	日付		2004-07-30												
	時刻		10:30:00												
観測地点	実測地点名称														
	緯度(度)														
	緯度(分)														
	緯度(秒)														
	経度(度)														
	経度(分)														
全水深(m)		基準面 =	水面 38.8												
深度	基準面 =	項目	天候	風向	風速	気温	色相	透明度	水温	塩分	濁度	天候	風向	風速	気温
層名称	測定深度	単位	使用機器	作業方法											
上層	0.5	m				晴	SW	3.0	30.2	暗灰黄緑色	2.7				
	1.0	m							27.2	27.7	5.6				
	2.0	m							27.2	27.7	5.7				
	3.0	m							26.7	27.9	5.1				
	3.5~4	m							26.2	28.5	3.6				
中層~上層	66.0	m							25.8	29.2	3.2				
	67.0	m													
	68.0	m													
	B+1	m							18.9	34.3	3.7				
備考															

No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	調査点 ※①	必須	自由	エディタの調査地点座標シートに記述している地点名と一致させます。また、当該地点で観測した日付、項目数分のセルを結合します（上記の例ではE列からM列までが No.1 で行われた調査であることから、それらの列を結合しています）。
2	開始 ※②	必須	日時は yyyy-mm-dd 形式 時刻 hh:mm:ss 形式	日付（必須）、時刻（任意） 当該日付で観測した項目数分のセルを結合します（上記の例では E 列から M 列までが 2002-07-30 に行われた調査であることから、それらの列を結合しています）。また、調査日付、時刻が瞬間値である場合（期間でない場合）は、これらのセルに記述します。
3	終了 ※②	任意	日時は yyyy-mm-dd 形式 時刻 hh:mm:ss 形式	調査を実施した日時が期間である場合に、終了した日付（期間で記述する際には必須）、時刻（任意）を記述します。記述する際の形式は開始と同様です。
4	観測地点の実測座標 ※③	任意	緯度経度 （10 進法表記）	エディタの調査地点座標シートに記述している座標が計画座標として位置づけられている場合、ここでは、現地にて実測した座標を記述します。度入力をする場合は、度のセルに記述し、度分入力を行う時は、度および分のセルに記述します。また、当該地点で観測した項目数分のセルを結合します。
5	全水深	任意	自由	単位は m（メートル）を用います。また、当該地点で観測した項目数分のセルを結合します。
6	全水深基準面	（必須）	自由	全水深を記述する際には必須。全水深の深度を記述します。例：水面、TP 等
7	・層名称 ・測定深度 ・単位	任意	自由	層名称だけでも入力可能です。測定深度は“B+1”のように文字列で記入することも可能です。また、測定深度を範囲で記述することも可能です。その際には、深度の上端と下端を”～“でつないでください（例：1.5～2.5）。層名称も同様に”～“でつないで記述することができます。
8	測定深度基準面	任意	自由	測定深度を記述する際の基準面を記述します。例：水面、海底、TP 等
9	項目・単位	必須	自由	
10	使用機器・作業方法 ※④	任意	使用機器シート・作業方法シートに記述した内容と一致させる	エディタの調査項目シートにおいて、調査項目に関する使用機器および作業方法を定義しますが、その定義した機器、方法とは異なったものを使用した場合のみ記述します。記述する際には、作業方法、使用機器シートに当該方法、機器を定義した上で、その方法名称、機器名称と一致させて記述します。
11	値	必須	自由	入力した値（ND、<0.01、定量限界値未満等のテキストを含む）がそのままの形で出力されます。ある深度が全て空白の場合はその調査項目、深度についてのデータは出力されません。

12	備考	任意	自由	備考は調査日時もしくは、調査地点ごとに記述します。ある日時に行われた調査に関する備考である場合は、当該日時分のセルを結合して記述します。一方で、ある地点で行われた調査に関する備考を記述する場合は、当該地点分のセルを結合し、記述します。なお、ある地点において、ある一日時のみの調査を行った場合の備考は、当該日時における備考として出力されます。
----	----	----	----	--

※① 記入済みの地点間に未記入の地点記入欄を追加する場合

地点を追加する場合は、エクセルの機能を用います。例えば、地点 No.1 (E~M列) と地点 No.2 (N列~) の間に No.1-1 の地点のデータを入力する列を挿入する場合には、挿入したい列の1つ右の列 (N列) から挿入したい列数分の列 (N~P列) を選択し、右クリックして“挿入”を行います。挿入された列は、結合処理はされていないので、ユーザーが結合を行ってください。

※② ある調査地点 (No.1) において、調査日付を追加する場合

例えば、調査地点 NO.1 において、2002-07-30 の他に、2002-11-29 での調査を入力する場合、M列の右に追加したい列数を追加し (ここでは4列とする)、1行目を結合します (①)。次に、開始、終了日時、観測地点、全水深を結合します (②)。

※③ 計画座標と実測座標がある場合

- エディタの調査地点座標シートにある計画座標

地点名称	緯度(度)	経度(度)	緯度(度)	緯度(分)	緯度(秒)	経度(度)	経度(分)	経度(秒)
No.1			35	35	10	139	55	10

- 観測値ファイルの実測座標

調査点			No.1
開始	日付	計画座標に対してわずかに実測座標はずれている	2004-07-30
	時刻		10:00:00
終了	日付		2004-07-30
	時刻		10:30:00
観測地点	実測地点名称		No.1
	緯度(度)		35.0
	緯度(分)		35.0
	緯度(秒)		15.0
	経度(度)		139.0
	経度(分)		55.0
	経度(秒)		15.0

※④ 使用機器、作業方法が特殊な場合

例えば、25 地点において調査を実施し、20 地点において、濁度の採水による測定を実験室内で行った（この場合の使用機器や作業方法はエディタの使用機器シート、作業方法シートに定義済み）が、その他の5 地点では、ポータブル濁度計で分析を行ったとする。そのような場合、作業方法欄に「濁度計による」、使用機器欄に「濁度計」というように記述する（記入内容はユーザーの自由）。この際の注意としては、**記入した使用機器や作業方法がエディタの使用機器シート、作業方法シートに定義されていない**なければならない。

なお、この欄に記入した場合、当該調査地点において測定された調査項目は全て、ここで記入した使用機器、作業方法で取得されたものと見なすので注意すること。ある深度においてのみ、異なる使用機器、作業方法を用いた場合は備考に記述すること。



No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	調査点 ※①	必須	自由	エディタの調査地点座標シートに記述している地点名と一致させます。また、当該地点で観測した日付、項目数分のセルを結合します（上記の例ではQ列からY列までが No.1 で行われた調査であることから、それらの列を結合しています）。
2	開始 ※②	必須	日時は yyyy-mm-dd 形式 時刻 hh:mm:ss 形式	日付（必須）、時刻（任意） 調査日付、時刻が瞬間値である場合（期間ではない場合）は、これらのセルに記述します。同一日付で複数の時間で調査されている場合は、一番最初に当該日付を記述し、次から日付を記述する必要はありません※③ ある日時において複数の深度で調査を行った場合は、日時は一番上にだけ記述してください。 ※③
3	終了 ※②	任意	日時は yyyy-mm-dd 形式 時刻 hh:mm:ss 形式	調査を実施した日時が期間である場合に、終了した日付（期間で記述する際には必須）、時刻を記述します。記述する際の形式は開始と同様です。
4	観測地点の実測座標 ※④	任意	緯度経度 （10進法表記）	エディタの調査地点座標シートに記述している座標が計画座標として位置づけられている場合、ここでは、現地にて実測した座標を記述します。度入力をする場合は、度のセルに記述し、度分入力を行う時は、度および分のセルに記述します。
5	全水深※⑥	任意	自由	単位は m（メートル）を用います。また、当該地点で観測した項目数分のセルを結合します。
6	全水深基準面	（必須）	自由	全水深を記述する際には必須。全水深の深度を記述します。例：水面、TP 等
7	・層名称 ・測定深度 ・単位	任意	自由	層名称だけでも入力可能です。測定深度は“B+1”のように文字列で記入することも可能です。また、測定深度を範囲で記述することも可能です。その際には、深度の上端と下端を”～“でつないでください（例：1.5～2.5）。層名称も同様に”～“でつないで記述することができます。
8	測定深度基準面	任意	自由	測定深度を記述する際の基準面を記述します。例：水面、海底、TP 等
9	項目・単位	必須	自由	
10	使用機器・作業方法 ※⑤	任意	使用機器シート・作業方法シートに記述した内容と一致させる	エディタの調査項目シートにおいて、調査項目に関する使用機器および作業方法を定義しますが、その定義した機器、方法とは異なったものを使用した場合のみ記述します。記述する際には、作業方法、使用機器シートに当該方法、機器を定義した上で、その方法名称、機器名称と一致させて記述します。

11	値	必須	自由	入力した値（ND、<0.01、定量限界値未満等のテキストを含む）がそのままの形で出力されます。空白の場合はその調査項目、深度においてのデータは出力されません。
12	備考	任意	自由	備考は調査日時もしくは、調査地点ごとに記述します。ある日時に行われた調査に関する備考である場合は、P 列に当該日時の備考を記述します。一方で、ある地点で行われた調査に関する備考を記述する場合は、6 行目に当該地点分のセルを結合し、記述します。

※① 記入済みの地点間に未記入の地点記入欄を追加する場合

M列の右に3列を挿入したいとすると…

A~AB列を選択し、右クリックし、“挿入”を行う。

M列の右に3列が挿入される。

列の結合は行われないので、注意すること。

地点を追加する場合は、エクセルの機能を用います。例えば、地点 No.1 (Q～Y列) と地点 No2 (Z列～) の間に No.1-1 の地点のデータを入力する列を挿入する場合には、挿入したい列の1つ右の列から挿入したい列数分の列数分の列 (Z～AB列) を選択し、右クリックして“挿入”を行います。挿入された列は、結合処理はされていないので、ユーザーが結合を行ってください。

※② 記入済みの調査日時間に未記入の調査日時の記入欄を追加する場合

13行目の下に3行を挿入したいとすると…

右クリックし、“挿入”を行う。

13列の下に3行が挿入される。

例えば、調査地点 NO.1 において、2002-07-30 の9時、10時、11時のデータ他に、12時での調査結果を入力する行を挿入する場合、挿入したい行の1つ下の行から挿入したい行数分の行 (14～16行) を選択し、右クリックして“挿入”を行います。

※③ 調査日時の記入方法

日付	時刻	日付	時刻	実測地点 名称	緯度 (度)	緯度 (分)	緯度 (秒)	経度 (度)	経度 (分)	経度 (秒)	m	層 名称	測定 深度	単 位
2004-01-10	09:00:00	2004-01-10	09:30:00								38.8		1	
													10	
2004-01-11	10:00:00		10:30:00								38.9		1	
													10	
2004-01-12	11:00:00										40.1		1	
	12:00:00												10	
2004-01-13	09:00:00										39.5		1	
2004-01-13	09:00:00												10	

×: 終了日付が記述されていない

×: 同一日を2回記述している

※④ 計画座標と実測座標がある場合

- エディタの調査地点座標シートにある計画座標

地点名称	緯度(度)	経度(度)	緯度(度)	緯度(分)	緯度(秒)	経度(度)	経度(分)	経度(秒)
No.1			35	35	10	139	55	10

- 観測値ファイルの実測座標

調査点													No.1									
開始		終了		観測地点							全水深 基準面	深度	項目	天候	風速	風速	気温	色相	透明度			
日付	時刻	日付	時刻	実測 地点 名称	緯度 (度)	緯度 (分)	緯度 (秒)	経度 (度)	経度 (分)	経度 (秒)	m	層 名称	測定深 度	単位	使用 機器	作業 方法	備考 ↓→					
2004-08-10	09:00:00	2004-08-11	09:30:00	No1	35	35	15	139	55	15	39.5							晴	SW	3	18.1	暗灰 黄緑

計画座標に対してわずか  
に実測座標はずれている

※⑤ 使用機器、作業方法が特殊な場合

例えば、20 地点において、濁度の採水による測定を実験室内で行った（この場合の使用機器や作業方法はエディタの使用機器シート、作業方法シートに定義済み）が、そのうちの 5 地点では、ポータブル濁度計で分析を行ったとする。そのような場合、作業方法欄に「濁度計による」、使用機器欄に「濁度計」というように記述する（記入内容はユーザーの自由）。この際の注意としては、**記入した使用機器や作業方法がエディタの使用機器シート、作業方法シートに定義されていない**。

なお、この欄に記入した場合、当該調査地点において測定された調査項目は全て、ここで記入した使用機器、作業方法で取得されたものであると見なすので注意すること。ある深度においてのみ、異なる使用機器、作業方法を用いた場合は備考に記述すること。

※⑥ 複数の調査地点と全水深の記述方法

実測観測地点欄はここでは、非表示としている

				No.1			No.2			No.3					
開始		終了		全水深 基準面	深度		項目	水温	塩分	DO	水温	塩分	DO	水温	塩分
日付		時刻		水面	基準面=	水面	単位	°C	-	mg/l	°C	-	mg/l	°C	-
				m	層 名称	測定深 度	単位								
								使用 機器							
								作業 方法							
								備考 ↓→							
7	2004-01-10	09:00:00		10.0		1	m		11.1	25.1	9.5				
8	2004-01-11	09:00:00		10.1		1	m		12.5	24.6	9.6				
9	2004-01-12	09:00:00		10.2		1	m		11.5	24.5	9.3				
10	2004-01-13	09:00:00		10.3		1	m		10.6	24.9	9.8				
11	2004-01-14	09:00:00		10.4		1	m		12.7	25.3	9.4				
12	2004-01-15	09:00:00		10.5		1	m		11.3	25.6	9.5				
13	2004-01-16	09:00:00		10.6		1	m		11	25.5	9.8				
14	2004-01-17	09:00:00		10.7		1	m		11.8	25.5	9.6				
15	2004-01-18	09:00:00		10.8		1	m		11.7	25	9.9				
16	2004-01-19	09:00:00		10.9		1	m		12.1	24.7	9.7				
17	2004-01-20	09:00:00		11.0		1	m		12.3	25.3	9.5				
18	2004-01-10	09:00:00		13.0		1	m				13.5	28.5	8.1		
19	2004-01-11	09:00:00		13.1		1	m				14.1	28.4	8.5		
20	2004-01-12	09:00:00		13.2		1	m				13.6	28.6	8.6		
21	2004-01-13	09:00:00		13.3		1	m				13.7	28.7	8.4		
22	2004-01-14	09:00:00		13.4		1	m				14	28.4	8.6		
23	2004-01-15	09:00:00		13.5		1	m				14	28.1	8.8		
24	2004-01-16	09:00:00		13.6		1	m				14	28.3	8.8		
25	2004-01-17	09:00:00		13.7		1	m				14.1	28.2	8.6		

複数の調査地点で同一の調査時間に調査を行った結果を記述する場合は、調査地点ごとに調査時間を記述する（重複させる）。2004-01-10T09:00:00においてNO.1、NO.2で調査を行った場合に、全水深を両地点の全水深を記述することができないため。

### 3.2.8. 観測値ファイル：生物用観測値ファイルの入力（必須）

生物用の観測値ファイルを開き、調査により取得したデータを記入していきます。記入が必須である項目については、赤字で示してあります。

The screenshot shows an Excel spreadsheet titled "Microsoft Excel - 生物用サンプル\_1.xls". The spreadsheet is divided into several sections for data entry. Red boxes and numbers 1 through 12 highlight required fields:

- 1**: 調査点 (Survey Point)
- 2**: 開始 (Start)
- 3**: 終了 (End)
- 4**: 観測地点 (Observation Location)
- 5**: 全水深 (Total Water Depth)
- 6**: 観測地点の緯度経度 (Latitude/Longitude of Observation Location)
- 7**: 単位 (Unit)
- 8**: 層名称 (Layer Name)
- 9**: 項目 (Item)
- 10**: 使用機器・作業方法 (Equipment/Method)
- 11**: 科 (Family)
- 12**: 備考 (Remarks)

The species list section (rows 19-24) contains the following data:

門	綱	目	亜目	上科	科	亜科	属	学名	和名	備考	単位	個体数	個体/m <sup>3</sup>	個体/m <sup>3</sup>	湿重量	g/m <sup>3</sup>	個体/m <sup>3</sup>
刺胞動物	ヒドロムシ	ヒドロムシ			ウミシバ			SERTULARIIDAE	ウミシバ科			50	0.09				
	花虫	イソギンチャク						ACTINIARIA	イソギンチャク目					360	1.00		11
扁形動物	ウズムシ	ヒラムシ						POLYCLADIDA	ヒラムシ目			200	1.00				200

No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	調査点 ※①	必須	自由	エディタの調査地点座標シートに記述している地点名と一致させます。また、当該地点で観測した日付、項目数分のセルを結合します（上記の例ではM列からP列までが No.1 で行われた調査であることから、それらの列を結合しています）。
2	開始 ※②	必須	日時は yyyy-mm-dd 形式 時刻 hh:mm:ss 形式	日付（必須）、時刻（任意） 当該日付で観測した項目数分のセルを結合します（上記の例では M 列から P 列までが 2002-07-22 に行われた調査であることから、それらの列を結合しています）。また、調査日付、時刻が瞬間値である場合は、これらのセルに記述します。
3	終了 ※②	任意	日時は yyyy-mm-dd 形式 時刻 hh:mm:ss 形式	調査を実施した日時が期間である場合に、終了した日付（期間で記述する際には必須）、時刻を記述します。記述する際の形式は開始と同様です。
4	観測地点の実測座標 ※③	任意	緯度経度 （10 進法表記）	エディタの調査地点座標シートに記述している座標が計画座標として位置づけられている場合、ここでは、現地にて実測した座標を記述します。度入力をする場合は、度のセルに記述し、度分入力を行う時は、度および分のセルに記述します。また、当該地点で観測した項目数分のセルを結合します。
5	全水深	任意	自由	単位は m（メートル）を用います。また、当該地点で観測した項目数分のセルを結合します。
6	全水深基準面	（必須）	自由	全水深を記述する際には必須。全水深の深度を記述します。例：水面、TP 等
7	・層名称 ・測定深度 ・単位	任意	自由	層名称だけでも入力可能です。測定深度は“B+1”のように文字列で記入することも可能です。また、測定深度を範囲で記述することも可能です。その際には、深度の上端と下端を”～“でつないでください（例：1.5～2.5）。層名称も同様に”～“でつないで記述することができます。
8	測定深度基準面	任意	自由	測定深度を記述する際の基準面を記述します。例：水面、海底、TP 等

9	項目・単位	必須	自由	<p>種の分類は以下のようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 門</li> <li>● 綱</li> <li>● 目</li> <li>● 亜目</li> <li>● 上科</li> <li>● 科</li> <li>● 亜科</li> <li>● 属</li> <li>● 学名</li> <li>● 和名</li> </ul> <p>種が同定できない場合などに用いる“その他”は一般名称の入力欄に記述してください。</p>
10	使用機器・作業方法 ※⑤	任意	使用機器シート・作業方法シートに記述した内容と一致させる	<p>エディタの調査項目シートにおいて、調査項目に関する使用機器および作業方法を定義しますが、その定義した機器、方法とは異なったものを使用した場合のみ記述します。記述する際には、作業方法、使用機器シートに当該方法、機器を定義した上で、その方法名称、機器名称と一致させて記述します。</p>
11	値	必須	自由	<p>入力した値（ND、&lt;0.01、定量限界値未満等のテキストを含む）がそのままの形で出力されます。また、空白の場合はその調査項目、深度においてのデータは出力されません。</p>
12	備考	任意	自由	<p>備考は調査日時もしくは、調査地点ごとに記述します。ある日時に行われた調査に関する備考である場合は、当該日時分のセルを結合して記述します。一方で、ある地点で行われた調査に関する備考を記述する場合は、当該地点分のセルを結合し、記述します。なお、ある地点において、ある一日時のみの調査を行った場合の備考は、当該日時における備考として出力されません。</p>

※① 記入済みの地点間に未記入の地点記入欄を追加する場合

P列の右に3列を挿入したいとすると…

Q～T列を選択し、右クリックし、“挿入”を行う。

形式を選択して貼り付け...  
 挿入(I)  
 削除(D)  
 数式と値のクリア(A)  
 セルの書式設定(F)...  
 列の幅(O)...  
 表示しない(H)  
 再表示(L)

P列の右に3列が挿入される。

列の結合は行われないので、注意すること。

地点を追加する場合は、エクセルの機能を用います。例えば、地点 No.1 (M～P列) と地点 No2 (P列～) の間に No.1-1 の地点のデータを入力する列を挿入する場合には、挿入したい列の1つ右の列(Q列)から挿入したい列数分の列(Q～T列)を選択し、右クリックして“挿入”を行います。挿入された列は、結合処理はされていないので、ユーザーが結合を行ってください。

※② 記入済みの調査日時間に未記入の調査日時の記入欄を追加する場合

※ ある調査地点 (No.1) において、調査日付を追加する場合

P列の次に4列追加する。

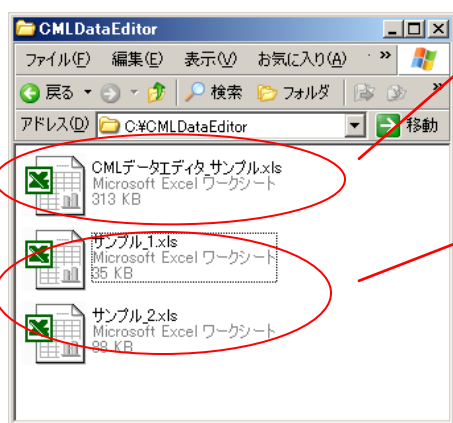
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
No. 1									
日付	2004-07-22				2004-07-22				
時刻	10:00:00				11:00:00				
日付	2004-07-22				2004-07-22				
時刻	10:30:00				11:30:00				
実測地点名称									
経度(度)									
経度(分)									
経度(秒)									
緯度(度)									
緯度(分)									
緯度(秒)									
水面	8.8				8.8				

例えば、調査地点 NO.1 において、2002-07-22 の 11:00:00 の他に、11:00:00 での調査を入力する場合、P列の右に追加したい列数を追加し（ここでは4列とする）、1行目を結合します（①）。次に、開始、終了日時、観測地点、全水深を結合します（②）。



### 3.2.9. 観測値ファイル：観測値ファイルの終了とフォルダへの格納（必須）

観測値ファイルの入力が終了したら、保存して終了します。観測値ファイルのファイル名は自由ですが、深度変動用、時間変動用、生物用のどれにあたるかがわかるようにしておくことを推奨します。次に 3.2.1 で作成したフォルダに観測値ファイルを格納します。格納する際には、エディタの種類（深度変動用、時間変動用、生物用）に対応した観測値ファイルを格納してください。



**エディタ**

ここでは、サンプルとしていますが、本来は深度変動用エディタ、時間変動用エディタ、生物用エディタのいずれかとなります。

**観測値ファイル**

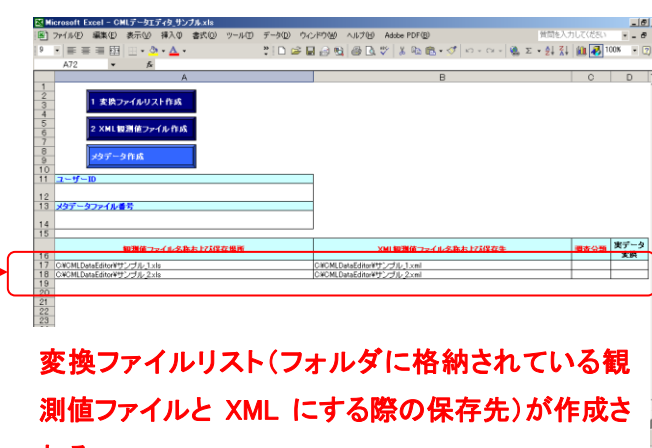
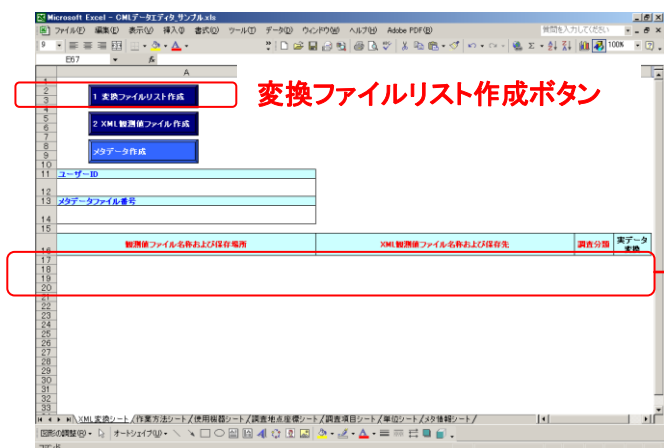
ここでは、サンプルとしていますが、本来は深度変動用、時間変動用、生物用観測値ファイルのいずれかとなります。ただし、エディタの種類と一致させるようにします。

注意) フォルダ内には同一の種類（深度変動用、時間変動用、生物用）のエディタと観測値ファイルをセットとして格納してください。

### 3.2.10. エディタ：XML 変換シートでの変換ファイルリスト作成と調査分類の選択（必須）

変換ファイルリスト作成ボタンをクリックすると、エディタが格納されているフォルダ内にあるエクセル観測値ファイルと XML 観測値ファイルのリストが表示されます。

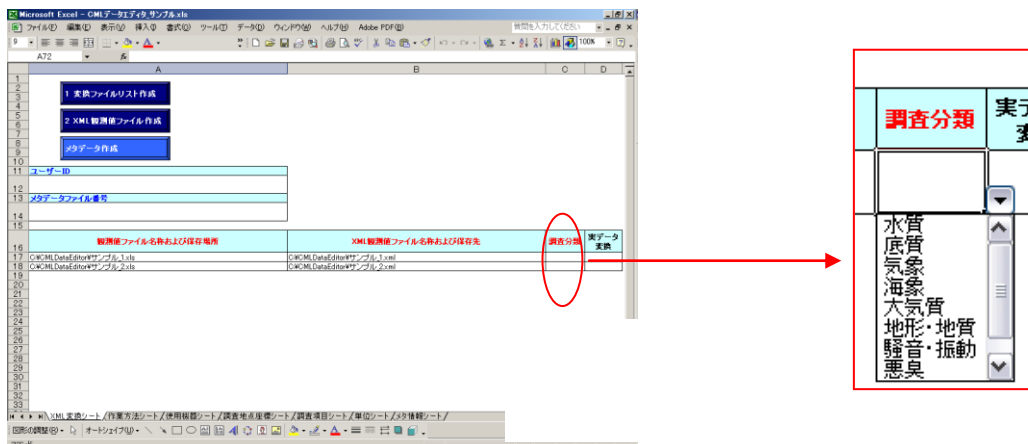
XML への変換対象となる観測値ファイル以外のファイルがリストに表示された場合は、その行ごと削除（行を選択して右クリックし、削除）してください。



**変換ファイルリスト(フォルダに格納されている観測値ファイルと XML にする際の保存先)が作成される。**

例では、エディタがあるフォルダには2つの観測値ファイルがあることを意味する。

変換ファイルリストを作成した後、リストに挙がった観測値ファイルに対して、一つの調査分類をドロップダウンリストから指定します。これは、観測値ファイルの種類により異なります。



● 深度変動用、時間変動用エディタで選択できる調査分類

- |       |        |
|-------|--------|
| ① 水質  | ⑥ 地形地質 |
| ② 底質  | ⑦ 騒音振動 |
| ③ 気象  | ⑧ 悪臭   |
| ④ 海象  | ⑨ その他  |
| ⑤ 大気質 |        |

● 生物用エディタで選択できる調査分類

- |            |          |
|------------|----------|
| ① 植物プランクトン | ⑨ 魚卵・稚子魚 |
| ② 動物プランクトン | ⑩ 海藻草類   |
| ③ 底生生物     | ⑪ 鳥類     |
| ④ 付着生物     | ⑫ 植物     |
| ⑤ 砂浜生物     | ⑬ 昆虫     |
| ⑥ 干潟生物     | ⑭ 両生・爬虫類 |
| ⑦ 藻場生物     | ⑮ 哺乳類    |
| ⑧ 魚介類      | ⑯ 淡水魚    |

### 3.2.11. エディタ：調査項目シートでの調査項目と単位の読み込み（必須）

調査項目シートの調査項目の配置ボタンをクリックすると、変換ファイルリストに列挙された観測値ファイルの中で記述されている調査項目と単位をセットとして、エディタの調査項目シートに読み込みます。これにより、変換リストにある複数の観測値ファイルの中でどの様な調査項目が、どのような単位で存在するかが一覧できます。

配置された項目に対して、関連する使用機器、作業方法をドロップダウンリストから選択します（使用機器シート、作業方法シートに記述されていることが前提）。また、単位シートにも単位のリストを自動的に作成します。

#### ● 調査項目シート

変換ファイルリスト  
作成ボタン

調査項目	単位	備考	項目と関連する機器1	項目と関連する機器2	項目と関連する機器3	項目と関連する方法1	項目と関連する方法2	項目と関連する方法3
天候	-							
風向	-							
風速	m/s							
気温	°C							
色相	-							
透明度	m							
水温	°C							
水位	m							
濁度	度							

“調査項目の配置ボタン”のクリックにより自動的に記入される部分

ユーザーが選択する部分(使用機器シート、作業方法シートに記述した場合)

【観測値ファイルにおいて、ある場所、ある時間のみ使用した機器や方法を記述している場合】

P17、P21、P27 で説明している「※④もしくは⑤ 使用機器、作業方法が特殊な場合」が該当する場合は、次のルールに従い、調査項目シートを作成してください。

調査点	No. 1	No. 2
開始	日付: 2008-07-30	2004-07-30
	時刻: 10:00:00	11:30:00
終了	日付: 2008-07-30	2004-07-30
	時刻: 10:30:00	12:00:00
観測地点	水深 (m): 38.8	35.0
	深度 (m): 15.0	
層名称	測定深度	単位
上層	0.5	m
上層~中層	2.0	m
使用機器	Compact-CLW	
作業方法	晴 SW 3.0 30.2	晴 SW 4.0 30.2

No. 1 の調査地点のみ、Compact-CLW を使用した場合は、当該機器を使用機器シートに定義する。

使用機器名称	使用目的	製造者	シリアルナンバー	設置場所	設定情報	機器と関連する方法1	機器と関連する方法2	機器と関連する方法3
ACL1183-PDK	分析	〇〇機器	tk002-123	調査船よりロープで固定		クロロテックによる鉛直測定		
Compact-CLW	分析	◇◇機器	00GGBB	調査船よりロープで固定				

このボタンにより、変換ファイルリストの観測値ファイルの中で記述されている調査項目と単位を自動的にこのシートへ配置します。

**調査項目の配置**

上記状態で、“調査項目の配置ボタン”を押すと、調査項目が重複して表示されるため、それぞれの調査項目について、機器を関連付ける。

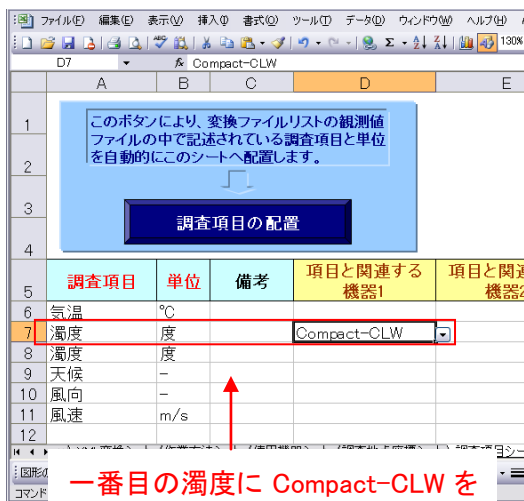
調査項目	単位	備考	項目と関連する機器1	項目と関連する機器2	項目と関連する機器3	項目と関連する方法1	項目と関連する方法2	項目と関連する方法3
気温	℃							
濁度	度							
濃度	度							
天候	-							
風向	-							
風速	m/s							

※注意点

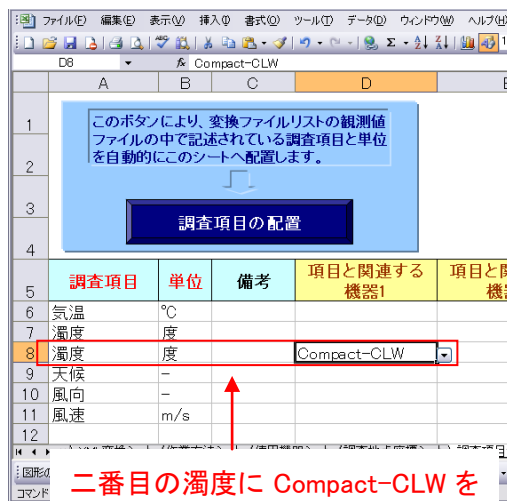
重複している調査項目のうち、特殊な機器、方法を関連づけるのは、必ず2番目以降の調査項目とする（次項参照）

<正しくない ×>

<正しい ○>

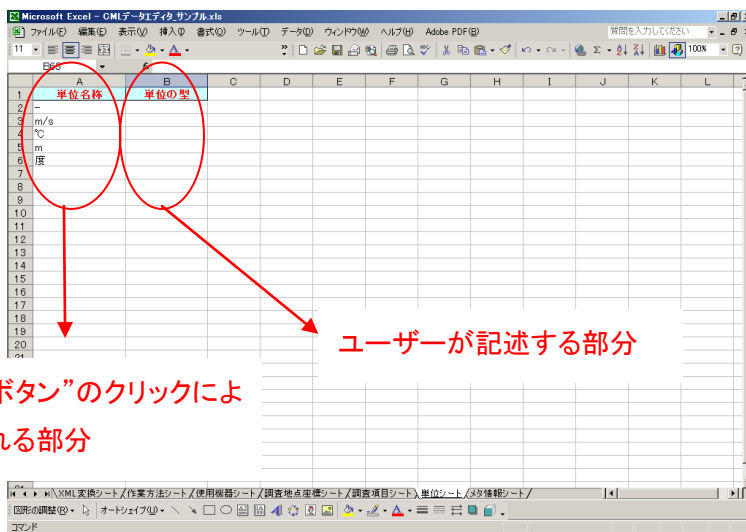


一番目の濁度に Compact-CLW を関連付けているため、正しくない。



二番目の濁度に Compact-CLW を関連付けているため、正しい。

● 単位シート

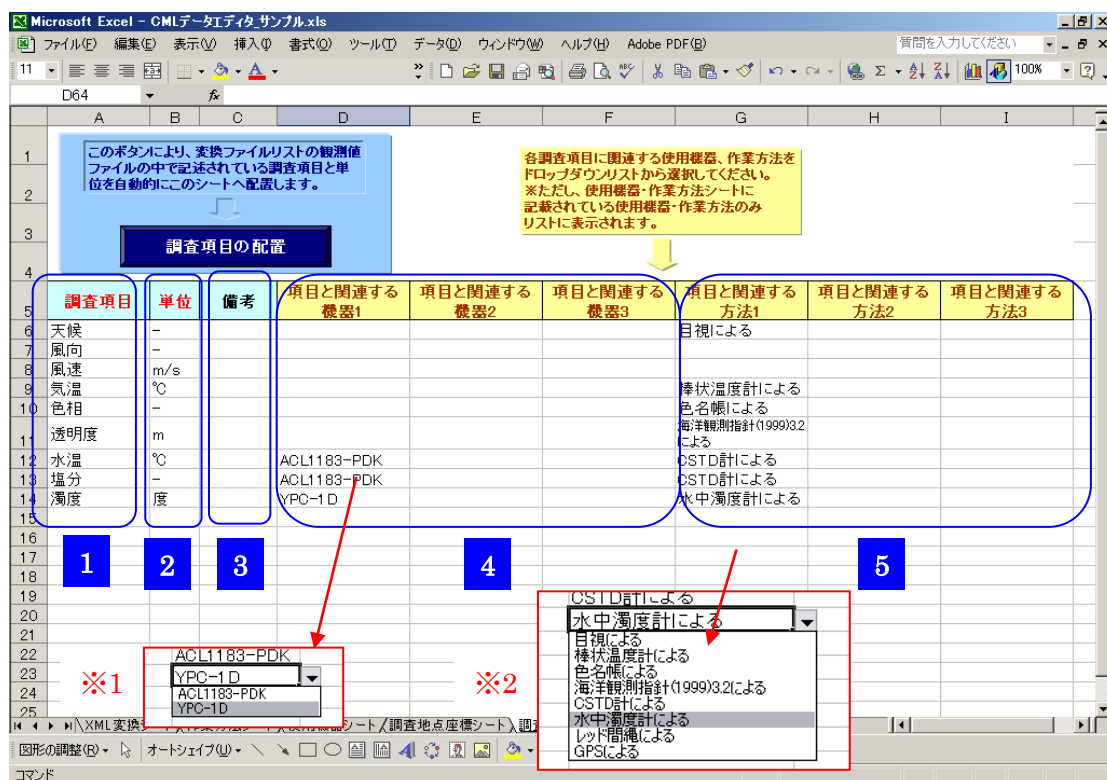


“調査項目の配置ボタン”のクリックにより自動的に記入される部分

ユーザーが記述する部分

### 3.2.12. エディタ：調査項目シート（必須）

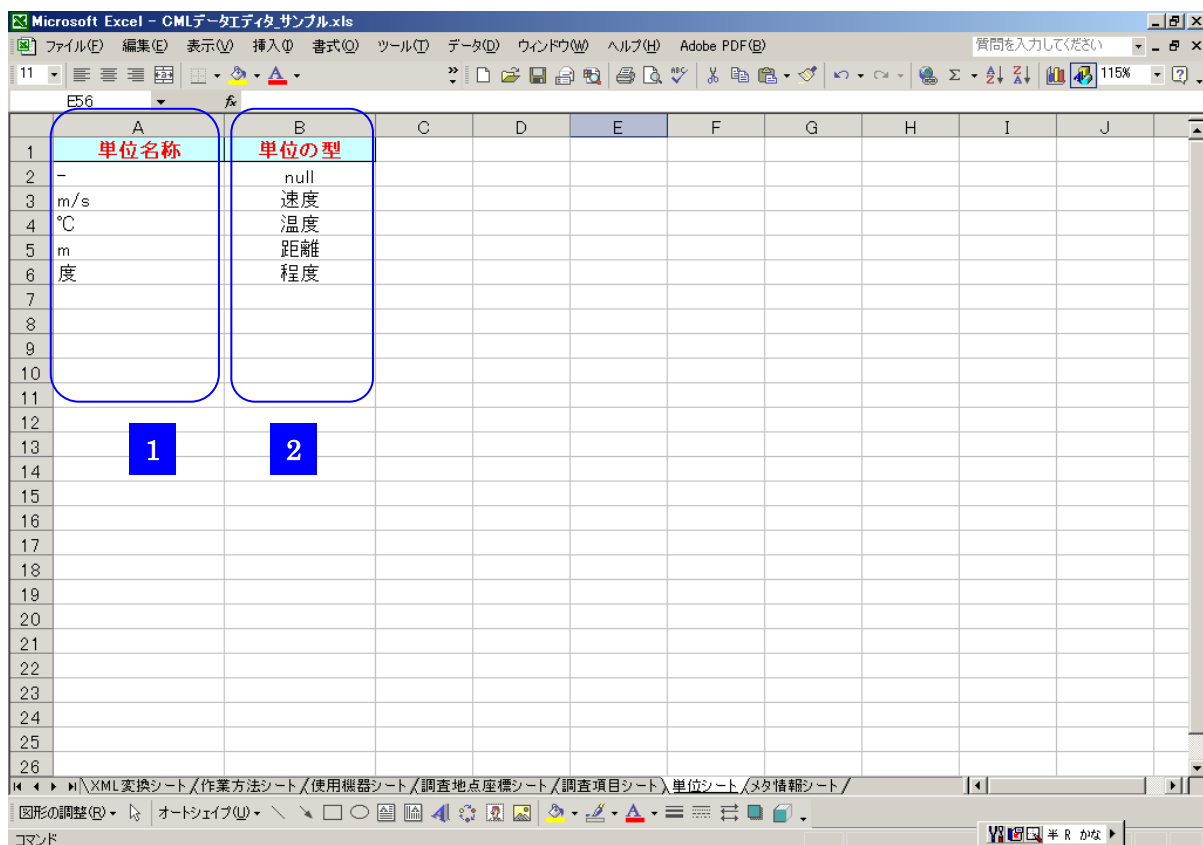
3.2.11 で調査項目と単位の配置が終わっているため、ユーザーが直接入力を行うのは、「備考」、  
「項目と関連する機器1～3」および「項目と関連する方法1～3」となります。3.2.2 および  
3.2.3 において、作業方法、使用機器に関する情報を記述してある場合は、「項目と関連する機器  
1～3」、「項目と関連する方法1～3」はドロップダウンリストから選択することができます。



No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	調査項目	必須		調査項目の配置ボタンのクリックにより、自動的に配置されます。
2	単位	必須		調査項目の配置ボタンのクリックにより、自動的に配置されます。
3	備考	任意	自由	
4	項目と関連する機器 1～3	任意	選択	※1 使用機器シートに定義されていれば、ドロップダウンリストから選択できます。
5	項目と関連する方法 1～3	任意	選択	※2 作業方法シートに定義されていれば、ドロップダウンリストから選択できます。

### 3.2.13. エディタ：単位シート（必須）

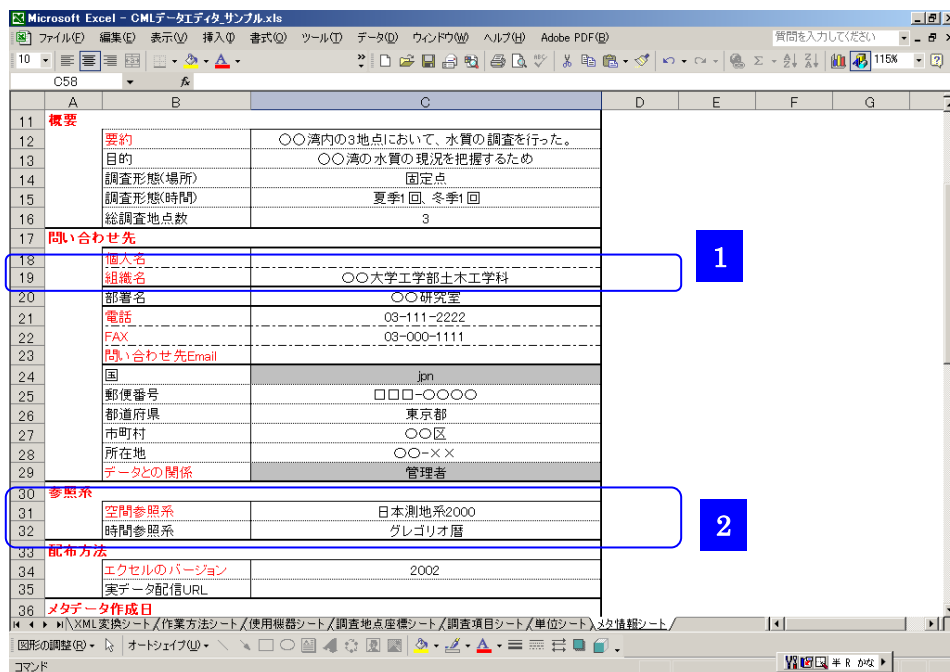
3.2.11 で調査項目と単位の配置が終わっているため、ユーザーが直接入力を行うのは、「備考」、  
「項目と関連する機器 1～3」および「項目と関連する方法 1～3」となります。



No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	単位名称	必須		調査項目の配置ボタンのクリックにより、自動的に配置されます。
2	単位の型	必須	Null（単位なし）・ 距離・密度・濃 度・温度・程度・ 数量・角度・方 位・割合・重量・ 容量・体積・面 積・その他から選 択	単位が示す型（量）をドロップダウンリス トから選択します。単位の型とは、濃度、 速度、密度、数量などの“単位の示す量” を示します。

### 3.2.14. エディタ：メタ情報シート（必須）

XML 観測値ファイルを作成するにあたって、データの取得主体の情報や時間、空間参照系に関する情報が必要になります。XML 観測値ファイルを作成するにあたってはこのメタ情報シートのデータに対する問い合わせ先と参照系に関する記述のみを行います（メタデータを作成する際にはその他の項目も記述する必要があります 3.2.2 参照）。



No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	問い合わせ先	組織名が必須	自由	組織名はデータを管理している機関を自由な形式で記述します。
2	参照系	必須	空間参照系は日本測地系 2000・日本測地系・WGS84 から選択。時間参照系はグレゴリオ暦・ユリウス暦から選択。	日本測地系 2000 で統一すると、過去のデータをこのエディタを用いて XML に変換する場合、座標変換が必要となります。座標変換作業はデータ利用者が行うべきという考え方にに基づき、データに用いている座標系を記述することとしました。

以上で、入力作業は終了です。エディタを保存し、XML 観測値ファイルを作成してください。

### 3.2.15. エディタ：XML 観測値ファイルの作成（必須）



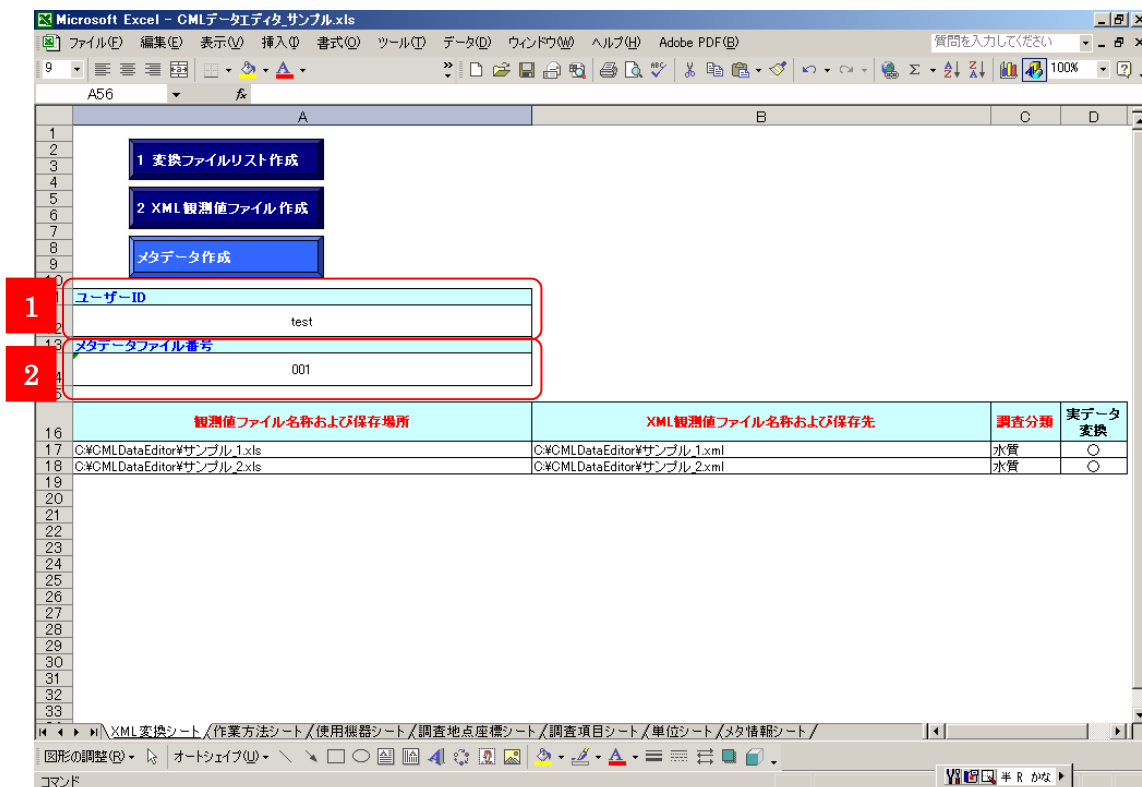
エディタを保存した後、XML 観測値ファイル作成ボタンをクリックし、XML 観測値ファイルの作成を行います。XML 観測値ファイルの作成に成功すると、「complete」ダイアログボックスが表示されます。なお、保存先に、既に同名のファイルがある場合は、自動的に上書きがされます。

また、変換が成功すると XML 変換シートに実データ変換列に“0”が表示されます。エラーがある場合は、エラーの内容を示したダイアログボックスが表示されるか、“×”が表示されます。

### 3.3 メタデータファイル作成

エディタの起動はXML 観測値ファイル作成と同様です（3.2.1 参照）。メタデータに記載する情報のソースとなる観測値ファイルのリスト作成は、変換ファイルリスト作成と同様です（3.2.10 参照）。

#### 3.3.1. ユーザーID・メタデータファイル番号の入力（必須）



No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	ユーザーID	必須	東京湾環境情報センターに利用者登録すると送信されるID	東京湾環境情報センターからユーザーIDの発行を受けていない場合でも、「ユーザーID欄」と「メタデータファイル番号欄」に文字列を入力すると、メタデータを作成することはできますが、東京湾環境情報センターに登録することは出来ません。
2	メタデータファイル番号	必須	自由	メタデータのファイル名は“ユーザーID”＋“メタデータファイル番号”.xml となります。

### 3.3.2. エディタ：メタ情報シート（必須）

B列の赤字はA列が赤字であったなら記入必須項目、青字はA列が任意であるが、記入するのであれば、必須項目となる条件付必須項目

A列の赤字は記入必須項目、黒字は任意項目

組織名と参照系の情報は  
実データにも出力される。  
(3.2.14 参照)

The screenshot shows a spreadsheet interface with the following sections and data:

- 実データ名称 (1-6):**
  - 報告書・論文等題名: 2003年度定期観測結果
  - 論文等掲載雑誌名
  - 巻・号
  - 著者
  - 日付: 2004-01-27
- クルーズ情報 (7-10):**
  - 船名
  - 所属機関
  - 航海名
- 概要 (11-16):**
  - 要約: ○○湾内の3地点において、水質の調査を行った。
  - 目的: ○○湾の水質の現況を把握するため
  - 調査形態(場所): 固定点
  - 調査形態(時間): 夏季1回、冬季1回
  - 総調査地点数: 3
- 問い合わせ先 (17-29):**
  - 個人名
  - 組織名: ○○大学工学部土木工学科
  - 部署名: ○○研究室
  - 電話: 03-111-2222
  - FAX: 03-000-1111
  - 問い合わせ先Email
  - 国: jpn
  - 郵便番号: □□□-○○○○
  - 都道府県: 東京都
  - 市町村: ○○区
  - 所在地: ○○-××
  - データとの関係: 管理者
- 参照系 (30-32):**
  - 空間参照系: 日本測地系2000
  - 時間参照系: グレゴリオ暦
- 配布方法 (33-35):**
  - エクセルのバージョン: 2002
  - 実データ配信URL
- メタデータ作成日 (36-37):**
  - 日付: 2004-01-27
- メタデータ作成者 (38-50):**
  - 個人名
  - 組織名: ○○大学工学部土木工学科
  - 部署名: ○○研究室
  - 電話: 03-111-2222
  - FAX: 03-000-1111
  - メタデータ作成者Email
  - 国: jpn
  - 郵便番号: □□□-○○○○
  - 都道府県: 東京都
  - 市町村: ○○区
  - 所在地: ○○-××
  - データとの関係: 管理者
- 備考 (51-52):**
  - コメント

No	入力項目	記入条件	記入方法、内容	備考
1	実データ名称	必須	日付はyyy-mm-dd形式、それ以外は自由	日付は日まで記述しなければならない。
2	クルーズ情報	クルーズ情報を記述する場合は、船名は必須、それ以外は任意	自由	
3	概要	要約は必須。それ以外は任意	調査形態(場所)は調査を行った場所について“固定点”、“移動点”のいずれかを選択。それ以外は自由。	調査形態(時間)は調査の頻度(毎月1回など)を記述します。
4	問い合わせ先	個人名、組織名のいずれかが必須、電話、FAX、Emailのいずれかは必須。それ以外は任意	電話番号は数値、Emailは半角英数字、それ以外は自由	データ管理者として、個人名/組織名のいずれかを記述します。また、連絡先として、電話番号/FAX/問い合わせ先 Emailのうち最低1項目は記述します。なお、電話番号、FAXは市外局番、市内局番、電話番号を“- (半角ハイフン)”で繋がります。国、データのとの関係はデフォルト設定として“jpn”、“管理者”と設定を行っています。
5	参照系	空間参照系は必須、それ以外は任意	空間参照系は日本測地系2000/日本測地系/WGS84の内から選択	座標の入力は緯度経度で行うものとしています。
6	配布方法	エクセルのバージョンは必須それ以外は任意	URLは半角英数字、それ以外は自由	データをウェブサイトで公開している場合は、そのURLを記述できます。
7	メタデータ作成日付	必須	yyyy-mm-dd形式	
8	メタデータ作成者	4の問い合わせ先にならう	使用機器シート・作業方法シートに記述した内容と一致させる	調査のメタデータを作成した主体に関する情報を記述します。記述の方法は「問い合わせ先」になります。
9	備考	任意	自由	

以上で、入力作業は終了です。

エディタを保存し、XMLメタデータファイルを作成してください。

### 3.3.3. XML メタデータファイルの作成 (必須)

XML 変換シートのメタデータ作成ボタンをクリックし、表示された作成するメタデータの保存フォルダを指定するダイアログボックスで保存場所を指定します。ここで、既に保存の指定を行ったフォルダにすでに、同名のファイルが存在すると、続行するか中止するかのダイアログボックスが表示されます。正常にメタデータ作成が終了すると、作成されたメタデータのプレビューが表示され、指定したフォルダにメタデータファイルが格納されます。

